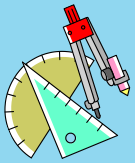


第1回

授業づくり講座 教材研究会

室戸市立室戸小学校

模擬授業提案



第5学年「合同な図形」山中 奨大教諭



【本時の目標】

合同な三角形をかくのに、すべての構成要素を調べる必要がないことを理解し、合同な三角形のかき方を考えることができる。

【本時では?】

既習の三角形の作図を想起させながら、合同な三角形のかき方を作図していく過程で合同な三角形が決まる条件について整理させ、全ての構成要素を用いなくても、三角形が一つに決まることに気付かせる。

リフレクション

これまで学習してきた作図などを全員で確認した後、模擬授業を通して、ねらいにせまることができるのかを話し合い、各ブロックに分かれ、代案を考えました。

【代案例】

- 導入では、合同な三角形をかく際の構成要素(辺、角)を確認し、頂点Aをおさえてはどうか。
- 課題は、「できるだけ少ない条件で合同な三角形ABCをかく方法を考えよう。」にしてはどうか。
- まとめは、「①、②、③が決まれば点Aが決まる。」にしてはどうか。(①、②、③は3通りのかき方)

各ブロックで話し合われたこと

ブロック協議内容

- 本時の目標の吟味
- 授業ゴールと本時の課題の対応のさせ方
- 既習の三角形のかき方を捉え直すための工夫
- 思考の節約を意識させる指導
- 合同な図形の単元の意味



学習活動【言語活動】 支援・【評価】

合同な三角形をかく時、元々の△ABCの構成要素(辺、角)の確認
 三角形のかき方(底辺の長さ、頂点Aの決め方)を考えた

① 3辺の長さ
 ② 1辺とその両端の角
 ③ 2辺とその間の角

4 誰かめる
 が決まれば点Aが決まる

色、三角形、カード

合同な三角形をかくだけ
 かなし数字でかく

言葉
 2辺
 1辺とその両端の角

低学年

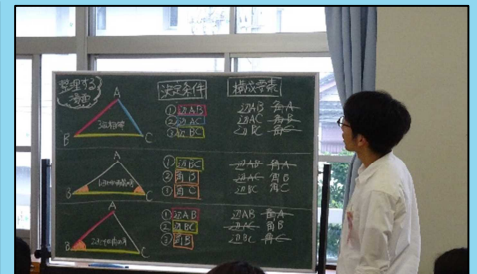
学習活動【言語活動】 支援・【評価】

合同な三角形をかくのに、すべての構成要素を調べる必要がないことを理解し、合同な三角形のかき方を考えることができる。

1 つかむ・見直す
 情報のない三角形提示→合同な三角形
 まずどこを知りたい? → どの、その理由
 どのが決まれば三角形

2 自力解決
 課題 頂点A. 決め方を考えよう。
 つぶせき→見直し
 道具、着目録

中学年



M教諭による協議途中の板書

学習活動【言語活動】 支援・【評価】

数値なしで提示
 「かいて」→えんじ/B
 数値を書き入れる→合同な△ABC

① 全部
 数値入れる

② 途中で気づく
 全部い、どのかな? (3,4年の既習を(これまで三角形をかいた母体はね)想起せよ) どうやってかいたかな?

3 学びあう
 課題 できるだけ少ない条件で合同な三角形ABCをかく方法を考えよう。

高学年

☆かいた三角形→合同か
 確認

① 3つの辺の長さ
 ② 2つの辺とその間の角の大きさ
 ③ 1つの辺の長さとその両はしの角の大きさ

振り返る

高学年



指導主事からの助言

- 三角形をかくということは、三点を決めるということ。
- 学びの積み上げの結果として、様々な要素が絡み合って、第5学年での「合同」の学習へ入る。第2学年では「長方形」「正方形」「直角三角形」、第3学年では・・・というように、各学年の学習内容の系統を踏まえ、第5学年では「合同」をどう見直していくのか、既習との差異を考えていく。各学年で学ぶこととの違いは何かを考えて指導する。

次回

平成 30 年 7 月 3 日 (火)
 13:45~
 授業研究会
 第5学年「合同な図形」

第2回

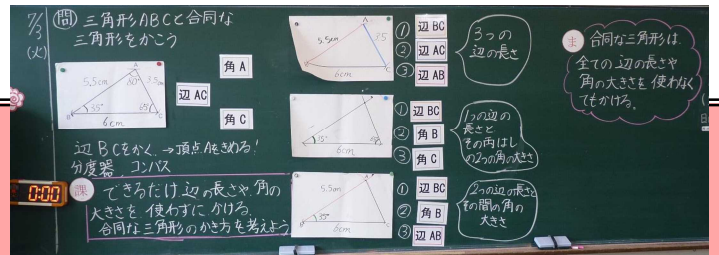
授業づくり講座 授業研究会

室戸市立室戸小学校

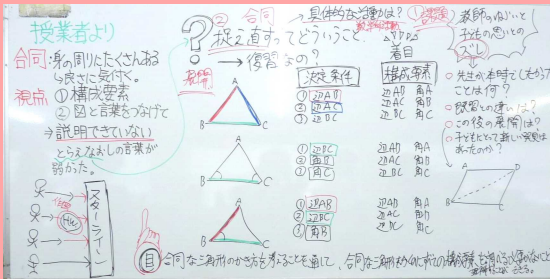
第5学年「合同な図形」山中 奨大教諭

【本時の提案授業】

7月3日、室戸小学校で授業研究会が開かれました。本時では、三角形や平行四辺形を作図してきたことを想起させながら、与えられた三角形と合同な三角形のかき方を考え作図をしていく過程で、合同な三角形が決まる条件について整理させること、全ての辺や角を用いなくても三角形が1つに決まるということに気付かせることをねらいとしました。また、単元を通して、合同の観点から既習図形を見直しました。



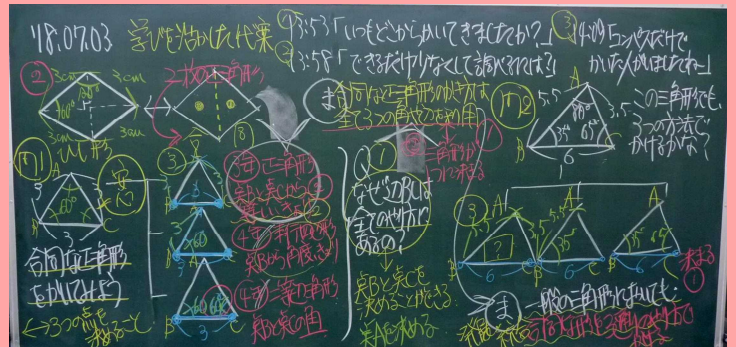
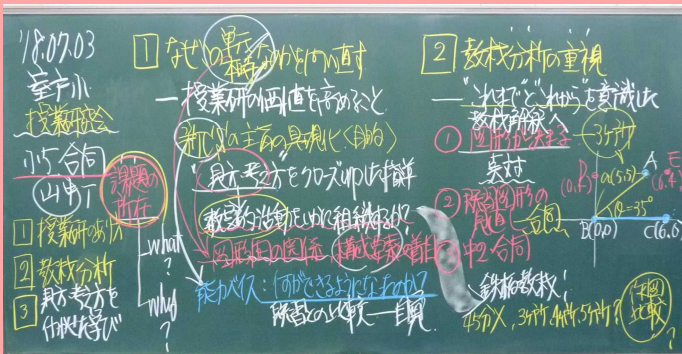
リフレクション



研究協議では、「子供は課題を理解できていたのか。どうすることで図形が決まるかに重点をおくべきではなかったのか。」「課題に『できるだけ』は必要だったのか。」「もう少し子供たちで説明し合う場面が必要ではなかったのか。」などの声が聞かれました。どこで教師と児童との思考にズレが生じたのかなども協議されました。

学力向上総括専門官より

本単元を扱う理由や課題の所在を明確にすること、見方・考え方に着目して数学的活動をいかに組織するのかを考えると、単元全体を見通したうえで構成を再考すること、新たな概念を学ぶとき、既習の価値を見直す活動を行うことにより、学びが繋がっていると児童に気付かせること等が大切であるとご指導いただきました。



◆参観者より

- 教師と児童とのズレやゴールイメージを明確にすることの大切さを学ぶことができました。また、教師自身が教材の意図をつかむ大切さを忘れないようにしたいです。
- 授業研究ではなぜこの単元を取り上げるのか、その理由からはっきりさせて授業を組み立てていく必要性を改めて感じました。また、学びの文脈を子供と描くことができるよう、しっかり教材研究を行いたいと思いました。
- 見方・考え方を各教科でしっかり見直して、授業で何を子供に学ばせるのか考える必要性を改めて感じました。

次回の室戸小学校での講座は、**8月21日(火)**
13:30~です!
ぜひご参加ください。